

平成17年度第3回 高知県森林環境保全基金運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成17年10月25日(火) 9時30分～12時00分
- 2 場 所 高知城ホール 2F「くすのき」
- 3 出席者 飯國委員 川村委員 田岡委員 津野委員 窪田委員 畠中委員 松本委員(出席者8名、欠席者石川委員、土居委員2名)

4 配付資料

平成17年度第3回高知県森林環境保全基金運営委員会資料

5 議 題

- (1) 森林環境緊急保全事業の審査について
- (2) 平成18年度予算について
- (3) その他

6 議 事

(本年度の強度間伐や里山整備の補助事業地について事務局から説明。あわせて24地区計340haを追加採択。)

(平成18年度当初予算についてたたき台を提示し、事務局から説明。)

- ・間伐事業は約600haを継続する。
- ・森林環境税県民シンポジウム等の新規ソフト事業を盛り込むこととする。

【以上の説明を受けての委員からの意見】

(1) 森林環境税シンポジウムの実施方法等について

・一般的な業者(広告代理店等)への委託では、業者には企画をする人がいないので効果的な企画立案が難しい。業者は何をしていいのかわからないのではないかと。業者に属していない人で、税を知り全体を統括するコーディネーターが必要。(畠中委員)

・内容の提案はNPO的なコーディネーター役がして、県内の業者が従来の垣根を取り払って実施を分担する。業者にメリットがあれば実現可能なのでは。(松本委員)

(2) 森林保全活動への企業の誘導等について

(事務局)企業の森林保全活動に関するアンケート(対象1700社、11月実施予定)の結果を見て、関心の有るところにはアタックしていく。

何を企業に期待しているのかを明確にしたらいいのでは。(畠中委員)

(事務局)企業に期待するのは継続性。土地は地域住民提供。企業、地域住民セットでやるのが理想。イメージアップは広報しかない。

・四国アイランドリーグを応援する農家の「一俵入魂」のPR方法を例にしてみても。(畠中委員)

- ・森林保全に貢献していることを示すマークの使用許可を出しては？企業のイメージアップになる。(窪田委員)
- ・通帳にマークを入れる。宅急便のトラックにマークを付ける。マークを県民の目に触れさせる、走らせることを目的に絞ってから、トラスト等、進展さす方がいいのでは。(畠中委員)
- ・「ゆっくり走ろう信濃路」のコピー、全国に広まったようにコピーを作っては？マスコットはどうか？(川村委員)
- ・大きな企業にあたっては？(窪田委員)
- ・維持管理は企業がやるという立てり、冠を自由に使えるようにしては。例えば、トラスト(水源の山を買って、維持管理を企業にやらせては。)(窪田委員)
- ・シンポの中へ企業も入ってもらい、何回かに分けて話し合うとか。環境税で何をしたいか問いかける。ハードだけでいいかという意見も山側から出ている。議論が積み重なって全国シンポへ。(飯國委員長)

(3) その他

- ・基金運営委員会の名前も固い。「500円の森委員会」という愛称はどうか。そして、使い道についても、「山を伐る・山を知る・木を使う」など、分かり易い表現をすればいいと思う。(畠中委員)

(また、森林環境税の延長に向けて、基金運営委員会のメンバーや県の関係部局でプロジェクトチーム準備会をつくり、これまでの事業実績や効果を検証した上で、延長にむけた課題や次期の税使途の方向性などをまとめる案を事務局から示した。)

以上、この議事録が事実と相違ないことを証明します。

平成 年 月 日

議 長

議事録署名人

同 上